

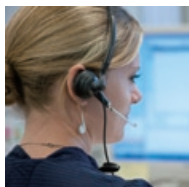
MORI SEIKI
THE MACHINE TOOL COMPANY



株主 通信

第63期

2010年4月1日—2011年3月31日



株式会社 森精機製作所

(証券コード：6141)



第3次中期経営計画 「GQ-C-SI 123」

Global
Quality
for Customers
with Speed
and Innovation

世界に通用する品質を、
スピードとイノベーションをもって
お客様にお届けします。

生産性及びシェアを向上することで
高い収益性を確保し、
企業価値の向上を実現します。

10% 営業利益率達成

20% 生産性向上*

30% 各地域工業会でのマーケットシェア向上*

(※2010年度比)

*P.5「中期経営計画」参照

お客様にとって一番の工作機械メーカーであること。
それが私たちのグローバルワンです。

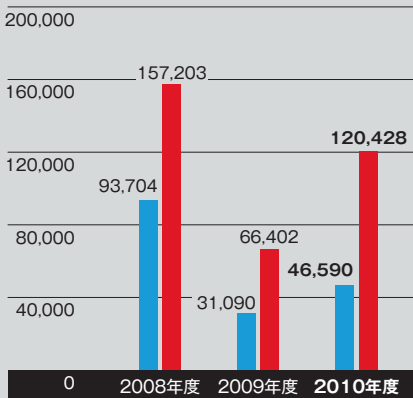
切削型工作機械の総合メーカーとして、
森精機製作所は常にものづくりの原点を
支えてきました。

その歩みは、常に変革と挑戦の歴史でした。
そして次に私たちが目指すのは、
お客様にとって一番の工作機械メーカーに
なることです。

最高の技術とサービスを絶えず追求し、
工作機械の新しい価値を無限の可能性を、
世界中のお客様へお届けしていきます。

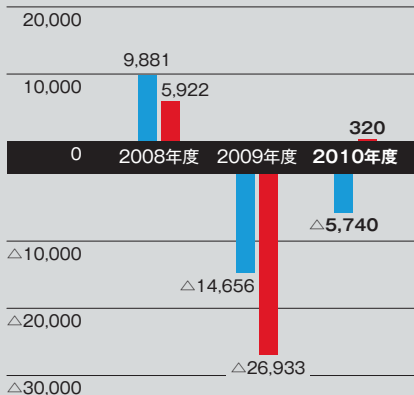
連結売上高

(単位：百万円)



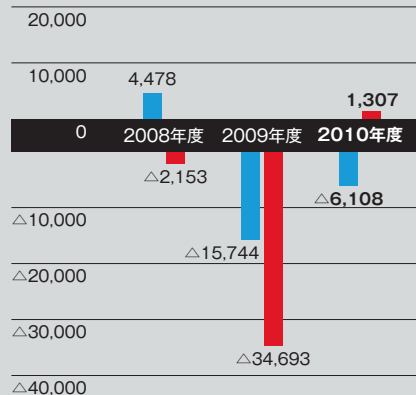
連結営業利益

(単位：百万円)



連結当期(中間)純利益

(単位：百万円)



第3次中期経営計画「GQ-C-SI 123」をスタート (Global Quality for Customers with Speed and Innovation 123)

この度の東日本大震災で被災されました株主の皆様、お客様及び関係者の皆様に対し、心よりお見舞い申し上げます。

ここに第63期(2010年4月1日から2011年3月31日まで)の株主通信をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当期の工作機械業界における引合・受注の環境は、アジア、欧米を中心とした好調な外需に支えられ、日本工作機械工業会によると当期の工作機械受注実績は前期比で約2倍になるなど、受注環境は復調しております。東日本大震災による内需の動向が一部懸念されますが、当社グループの営業活動は、堅調な外需の回復を背景に今後も受注の拡大が十分期待できるものと考えております。

このような経営環境下において当社グループでは、2011年度から第3次中期経営計画「GQ-C-SI 123」(Global Quality for Customers with Speed and Innovation 123)を始動いたします。第2次中期経営計画の取り組みで培った地盤を活用し、世界中のお客様にスピーディかつ今まで以上の品質で製品・サービスを提供することをビジョンに掲げ、強靱な営業・製造・開発の実現を目指します。最終年度の2013年度には、営業利益率10%以上の達成、2010年度比で効率20%以上の改善及び市場シェア30%以上の拡大を目標としております。

独国GILDEMEISTER AG(以下、ギルデマイスター社)との協業は、営業、購買、開発、生産、ファイナンスなどで順調に進展しており、2011年4月には同社の総発行株式数に占める当社グループの保有比率が20.1%となりました。さらに強化された資本関係のもと協業を加速してまいります。

国内の営業活動においては、お客様のニーズに対して、より迅速、かつきめ細やかな対応を図ることを狙いとし、2011年4月1日に自社製品及びギルデマイスター社製品の販売部門と国内サービス部門を集約した「株式会社森精機セールスアンドサービス」を設立いたしました。

製品開発では、機械剛性や省エネ対応、安全規格等において高いレベルでの製品化を実現した「Xクラス」が発表以来大好評をいただいております。製品ラインアップの充実とともに、海外への販売も強化いたします。

生産面では、米国カリフォルニア州に北米工場の建設を進めており、2012年7月の操業開始を予定しております。日本以外にも製造拠点を設け、納期及びサービス面で競争力の向上を図り、諸経費を削減するとともに、為替変動にも柔軟に対応できる体制を整えてまいります。

さらに、この度の東日本大震災では、200人体制でお客様の生産復旧の機械点検・修理に対応しました。引き続きサプライチェーンの見直しや、建物の耐震強化など震災対策を進めてまいります。

利益配分につきましては、将来の事業計画、業績、財務状況、新製品や新技術を中心とした開発投資及び設備投資の充実などを総合的に考慮し、安定的かつ持続的に配当を実施していくことを基本方針としております。第63期の期末配当につきましては、当社の業績と経済情勢を勘案し、1株あたり10円を6月15日からお支払することといたします(中間配当金と合わせ通期では20円となります)。

今後とも、更なる事業拡大へ邁進する所存でございますので、株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2011年6月



さまざまな分野で活躍する製品づくりに、森精機の



自動車

身近な存在である自動車やオートバイの部品の多くは、工作機械から生み出されています。特に自動車はすべての産業の中で、最も工作機械が活躍している分野です。



シリンダヘッド



アルミホイール



タービンブレード



プリスク

発電・資源・エネルギー

世界の原動力となるエネルギー分野の諸産業も、石油採掘装置の部品加工などを通して、工作機械と密接に関わっています。海底や砂漠といった過酷な状況下で行われる石油採掘の現場も、工作機械の多大な恩恵を受けているのです。



流量計ポンプ



ビット



建機部品



スクリュー

船舶・建機

都市建設に活躍するブルドーザーやパワーショベルといった建設機械、人や物資を大量に輸送することのできる船舶の大型部品も工作機械から生み出されています。

CNC旋盤

主軸によりワーク(加工物)に回転運動を与え、切削工具を押し付けて旋削加工を行う工作機械の代表機種。



マシニングセンタ

固定したワークに対して、主軸に装着した回転工具で切削を行う工作機械。主軸の位置に応じて立形と横形があります。



マザーマシンが活躍しています。



精密・金型

あらゆる製品の品質を決定付ける金型から、微細化・高精度化が進む精密部品まで、高度な加工が要求される分野においても工作機械は欠かせません。工作機械が進化することで金型や精密部品の品質は高まり、優れた製品が世に送り出されています。



携帯電話金型



等速ボールジョイント金型



鏡筒



複写機部品

複合加工機

1台のマシンに複数の工程を集約してマシニングセンターと旋盤を凌ぐ加工能力を発揮。ワークの材料や形状の多様化・複雑化に対応することができ、生産性を大きく向上させます。



電機・通信・半導体

デジタルカメラや液晶テレビに代表されるデジタル家電、高機能化が進む携帯電話などの活発な製品開発に伴い、半導体製造装置や液晶製造装置の設備需要が高まっています。工作機械は、こうした装置部品の加工を通して、製品の開発サイクルの短縮に貢献しています。

医療

日進月歩で進む医療分野の発展も、工作機械が支えています。CTスキャン、MRIなど最新の医療機器の部品から、人工関節や人工骨など体内に直接装着する医療器具まで、高品位かつ超高精度が求められる加工も工作機械が実現しています。



人工関節



ヒップジョイント



中期経営計画



森精機製作所は経営理念に基づき、工作機械産業における世界的な先駆者であるとともに、お客様の最良のパートナーでありたいと考えます。

そのビジョンを共有し、確実な戦略を実行するために、中期経営計画を実施しています。

2005～2007年度には「Mori-568PLAN」、2008～2010年度には「PQR555」が実施され、規模の拡大、経営品質の強化を行ってきました。

2011～2013年度を実施期間とする第3次中期経営計画「GQ-C-SI 123」では、これまでに築いてきた経営基盤を土台に、市場の変化に対応しながら更なる成長を実現していきます。

第2次中期経営計画「PQR555」の結果

P：グローバル人材の育成、社員教育の浸透を実現。

Q：精度のばらつき減少、精度向上を実現。

R：リスク管理が徹底された経営体質を確立。(輸出管理、事業継続計画作成など)

S：日本工作機械工業会シェア15%はグローバルでは未達ながら、米州(約20%)、欧州(約25%)においては達成。

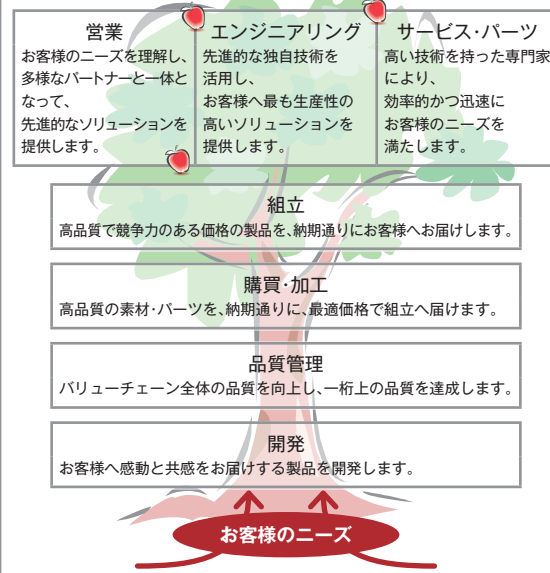
55：売上的大幅減により連結売上高原価率55%は未達ながら、変動費比率低減、固定費削減において成果あり。

第3次中期経営計画「GQ-C-SI 123」の骨子

| | |
|---------|---|
| ビジョン | 先進的なソリューションを持つ、一歩先を行く企業を目指します。 |
| 意味・定性目標 | <p>Global Quality for Customers with Speed and Innovation</p> <p>10% 営業利益率達成 20% 生産性向上* 30% 各地域工業会でのマーケットシェア向上* <small>(※2010年度比)</small></p> |
| 戦略 | <p>以下の3点を強化することで、ビジョンを達成します。</p> <p style="text-align: center;">強い工場と強い営業</p> <p style="text-align: center;">DMGとの協業 一桁違う品質</p> |

ビジョンツリー

各部の役割を木として認識することでビジョンを達成し、全社で一丸となってお客様満足を生み出します。



トピックス

DMG MORI SEIKI

① GILDEMEISTER AG (DMG) との業務及び資本提携 (グローバルな工作機械市場でのリーダーシップ確立を目指して)

2009年3月に始まった両社の業務及び資本提携は、販売拠点の統合、部品供給、共同開発、顧客向けファイナンス事業など、飛躍的に進展しております。2011年4月にはDMG株式の追加取得を行い、DMG総株式発行数に対する当社グループの株式保有比率は20.1%となり、さらに提携基盤を磐石なものとなりました。



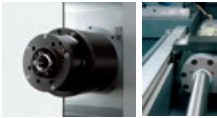

両社の強固な協力関係のもと、技術的な優位性と強力な販売網をあわせ、サービスを生かし、これまで以上にお客様の生産性の向上に貢献していきます。

< GILDEMEISTER AGの会社概要 >

| | |
|----------------------|--|
| 名称 | GILDEMEISTER AG |
| 主な事業内容 | 工作機械の製造、販売 |
| 設立年月日 | 1870年(明治3年)10月1日 |
| 本店所在地 | Gildemeisterstr. 60 D-33689 Bielefeld Germany |
| 代表者 | Ruediger Kapitza CEO |
| 資本金 | 118.5百万ユーロ |
| 従業員数 | 5,445名(連結) |
| 業績(2010年1月~2010年12月) | |
| 売上高 | 1,377百万ユーロ |
| 営業利益 | 45百万ユーロ |
| 純利益 | 4百万ユーロ |
| 総資産 | 1,358百万ユーロ |

DMG Annual report 2010の数字に基づき作成

協業事例紹介

| | | | |
|--|--|--|---|
| <p>1) 販売拠点の統合</p>  | <p>DMG / MORI SEIKI Indiaは2010年4月より、共同販売を開始しており、2011年5月にはバンガロールに新しくテクノロジーセンターを開設いたします。最新鋭の工作機械と設備を揃え、お客様の生産性向上のご提案をいたします。</p> | <p>2) 生産拠点の拡充</p>  | <p>既存の国内工場に加え、DMGの生産拠点を活用していきます。計画中の北米工場の設立ともあわせ、デリバリータイムの短縮により、お客様により早く製品をお届けするとともに、為替リスクを軽減し、より安定した経営体制を築きます。</p> |
| <p>3) グローバル調達</p>  | <p>2011年4月より欧州購買部を設立し、最高の欧州サプライヤからの調達を進め、国内及びグローバルでのバランスのとれた調達を行います。またMSQPの対象となるサプライヤの拡充をはかり、お客様にご提供する周辺機器のラインアップの拡充を図ります。</p> | <p>4) 共同開発</p>  | <p>森精機の高精度小型複合加工機NTX1000をDMGへOEM供給しております。(DMG呼称「CTX alpha 450 TC」) DMGの熟知するSiemensを搭載し、お客様の加工の幅をさらに広げます。</p> |

② 新会社 森精機セールスアンドサービス

販売サービス会社の営業開始

GILDEMEISTER AG(DMG)との提携も3年目を迎え、日本国内でのDMG製品の取扱高が年々増え、同製品の輸入販売が育ってまいりました。これを機に、自社製品及びDMG製品の販売部門に加え、両製品の国内サービス部門を新会社に移管し、2011年4月1日をもって「株式会社森精機セールスアンドサービス」として独立いたしました。

森精機セールスアンドサービスは、お客様のニーズに対して、より迅速に、かつきめ細やかに対応いたします。

< 森精機セールスアンドサービスの会社概要 >

| | |
|-----------|--------------------------|
| 名称 | 株式会社森精機セールスアンドサービス |
| 設立年月日 | 2011年4月1日 |
| 代表者 | 取締役会長 森 雅彦 取締役社長 玉井宏明 |
| 本店所在地 | 愛知県名古屋市中村区名駅2丁目35-16 |
| テクニカルセンタ | 国内32ヶ所 |
| 西部サービスセンタ | 三重県伊賀市御代201 |
| 東部サービスセンタ | 千葉県船橋市鈴身町488-19 |

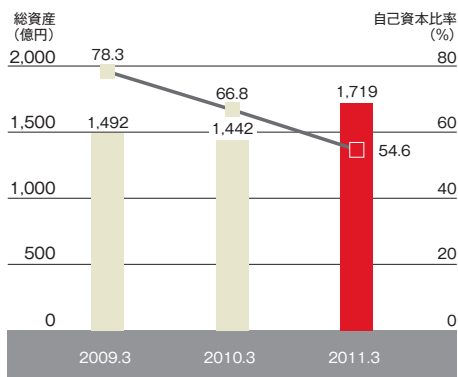
連結財務諸表(要旨)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

| 科目 | 前期 | 当期 |
|----------------|--------------|--------------|
| | 2010年3月31日現在 | 2011年3月31日現在 |
| 【資産の部】 | | |
| 流動資産 | 62,733 | 86,177 |
| 固定資産 | 81,433 | 85,772 |
| 有形固定資産 | 57,657 | 54,421 |
| 無形固定資産 | 7,757 | 6,256 |
| 投資その他の資産 | 16,018 | 25,094 |
| 資産合計 | 144,166 | 171,949 |
| 【負債の部】 | | |
| 流動負債 | 34,983 | 66,303 |
| 短期借入金 | 18,550 | 45,172 |
| 製品保証引当金 | 845 | 914 |
| 賞与引当金 | 234 | 123 |
| その他 | 15,353 | 20,093 |
| 固定負債 | 10,465 | 10,317 |
| 新株予約権付社債 | 2,583 | 2,583 |
| 退職給付引当金 | 312 | 309 |
| その他 | 7,570 | 7,425 |
| 負債合計 | 45,449 | 76,621 |
| 【純資産の部】 | | |
| 株主資本 | 97,271 | 96,360 |
| 資本金 | 41,132 | 41,132 |
| 資本剰余金 | 53,863 | 53,863 |
| 利益剰余金 | 12,820 | 11,910 |
| 自己株式 | △ 10,544 | △ 10,545 |
| その他の包括利益累計額 | △ 1,002 | △ 2,505 |
| その他有価証券評価差額金 | 1,750 | 1,463 |
| 繰延ヘッジ損益 | 943 | 476 |
| 土地再評価差額金 | 1,545 | 1,545 |
| 為替換算調整勘定 | △ 5,242 | △ 5,989 |
| 新株予約権 | 1,533 | 469 |
| 少数株主持分 | 914 | 1,003 |
| 純資産合計 | 98,717 | 95,328 |
| 負債・純資産合計 | 144,166 | 171,949 |

総資産／自己資本比率



■ 資産

流動資産は前期末比、37.4%増加:
受取手形及び売掛金が15,419百万円、たな卸資産が5,777百万円
それぞれ増加しています。
固定資産は前期末比、5.3%増加:
投資有価証券が10,115百万円増加しています。
この結果、総資産は前期末比、19.3%増加しています。

■ 負債

流動負債は前期末比、89.5%増加:
短期借入金が26,622百万円、買掛金が5,363百万円それぞれ増加
しています。
固定負債は前期末比、1.4%減少:
リース債務が258百万円減少しています。

■ 純資産

純資産合計は前期末比、3.4%減少:
当期純利益を1,307百万円計上した一方で、株主配当を2,212百万
円行いました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 前期 | 当期 |
|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|
| | 自 2009年4月 1日 至 2010年3月31日 | 自 2010年4月 1日 至 2011年3月31日 |
| 売上高 | 66,402 | 120,428 |
| 売上原価 | 55,204 | 80,863 |
| 売上総利益 | 11,198 | 39,564 |
| 販売費及び一般管理費 | 38,131 | 39,244 |
| 営業利益又は営業損失(△) | △ 26,933 | 320 |
| 営業外収益 | 1,289 | 1,427 |
| 営業外費用 | 956 | 1,180 |
| 経常利益又は経常損失(△) | △ 26,599 | 566 |
| 特別利益 | 1,056 | 1,612 |
| 固定資産売却益 | 20 | 206 |
| 投資有価証券売却益 | 1,006 | — |
| 関係会社株式売却益 | 29 | — |
| 新株予約権戻入益 | — | 1,406 |
| 特別損失 | 9,097 | 994 |
| 固定資産売却損 | 14 | 29 |
| 固定資産除却損 | 94 | 68 |
| 減損損失 | 233 | — |
| 投資有価証券評価損 | 32 | 496 |
| その他の投資評価損 | 8 | 13 |
| 災害による損失 | — | 88 |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | — | 15 |
| 事業構造改革費用 | 8,714 | 282 |
| 税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△) | △ 34,640 | 1,184 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 739 | 198 |
| 法人税等調整額 | 55 | △ 289 |
| 法人税等合計 | 795 | △ 91 |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | — | 1,275 |
| 少数株主損失(△) | △ 743 | △ 32 |
| 当期純利益又は当期純損失(△) | △ 34,693 | 1,307 |

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 前期 | 当期 |
|----------------------|------------------------------|------------------------------|
| | 自 2009年4月 1日 至 2010年3月31日 | 自 2010年4月 1日 至 2011年3月31日 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △ 15,995 | △ 10,240 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 12,894 | △ 14,054 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 21,477 | 24,107 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △ 44 | 85 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少額) | △ 7,457 | △ 101 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 14,255 | 7,255 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物増加額 | 457 | 260 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 7,255 | 7,414 |

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
主な増加要因は、減価償却費6,635百万円、仕入債務の増加5,453百万円、税金等調整前当期純利益1,184百万円であり、主な減少要因は、売上債権の増加16,093百万円、たな卸資産の増加6,514百万円であります。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
主な増加要因は、有形固定資産の売却による収入1,218百万円であり、主な減少要因は、投資有価証券の取得による支出10,547百万円、有形固定資産の取得による支出3,360百万円であります。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー
主な増加要因は、短期借入金の純増加額26,622百万円であり、主な減少要因は、配当金の支払額2,212百万円であります。

連結株主資本等変動計算書

当期(自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)

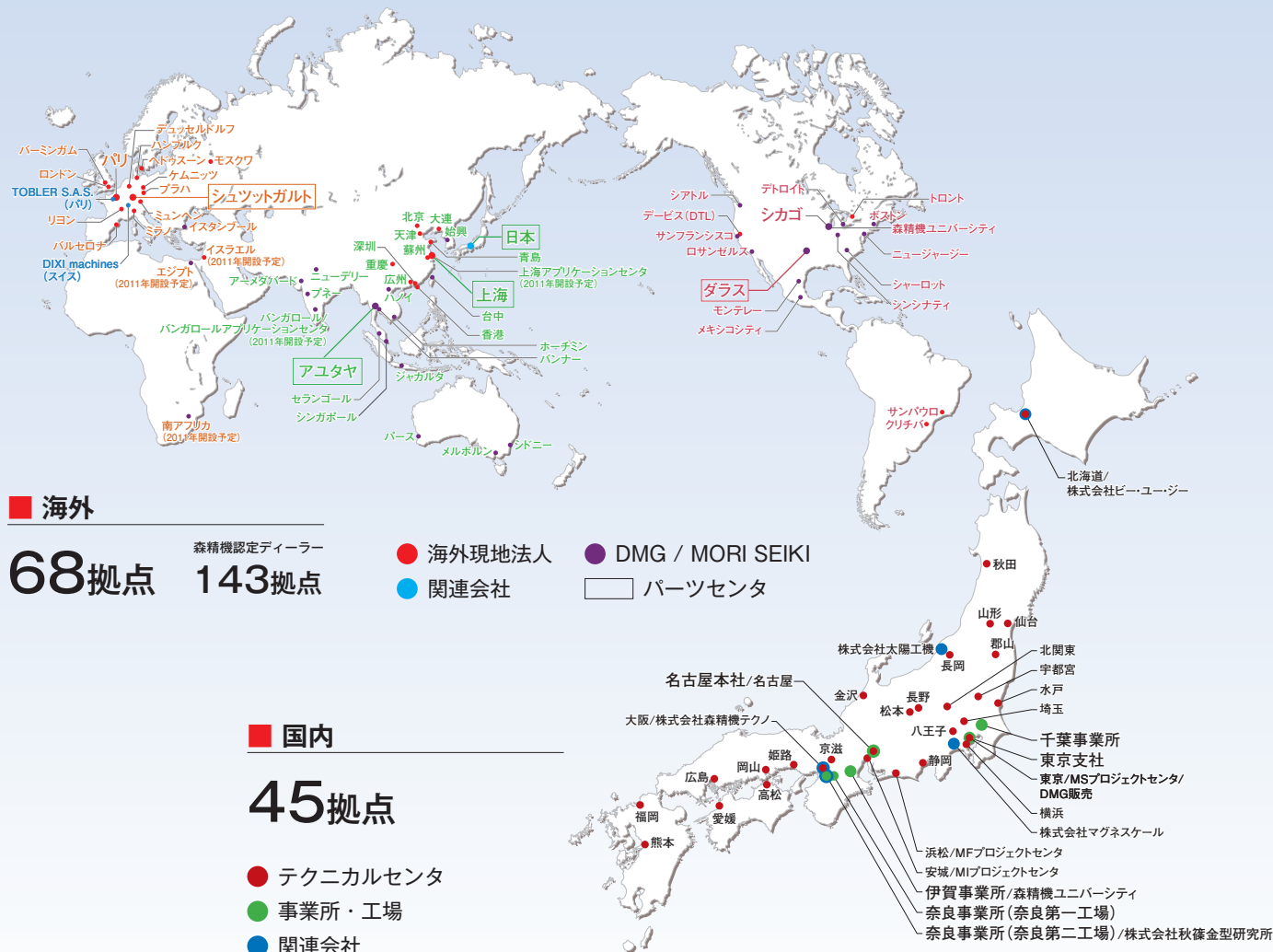
(単位:百万円)

| 区分 | 株主資本 | | | | | その他の包括利益累計額 | | | | | 新株予約権 | 少数株主持分 | 純資産合計 |
|---------------------------|--------|--------|---------|----------|---------|---------------|---------|----------|----------|---------------|---------|--------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | その他の有価証券評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | 土地再評価差額金 | 為替換算調整勘定 | その他の包括利益累計額合計 | | | |
| 2010年3月31日残高 | 41,132 | 53,863 | 12,820 | △ 10,544 | 97,271 | 1,750 | 943 | 1,545 | △ 5,242 | △ 1,002 | 1,533 | 914 | 98,717 |
| 連結会計年度中の変動額 | | | | | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △ 2,212 | | △ 2,212 | | | | | | | | △ 2,212 |
| 当期純利益 | | | 1,307 | | 1,307 | | | | | | | | 1,307 |
| 自己株式の取得 | | | | △ 0 | △ 0 | | | | | | | | △ 0 |
| 自己株式の処分 | | △ 0 | | 0 | 0 | | | | | | | | 0 |
| 新規連結に伴う利益剰余金減少額 | | | △ 5 | | △ 5 | | | | | | | | △ 5 |
| 株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額) | | | | | | △ 287 | △ 467 | — | △ 747 | △ 1,502 | △ 1,064 | 89 | △ 2,477 |
| 連結会計年度中の変動額合計 | — | △ 0 | △ 910 | △ 0 | △ 910 | △ 287 | △ 467 | — | △ 747 | △ 1,502 | △ 1,064 | 89 | △ 3,388 |
| 2011年3月31日残高 | 41,132 | 53,863 | 11,910 | △ 10,545 | 96,360 | 1,463 | 476 | 1,545 | △ 5,989 | △ 2,505 | 469 | 1,003 | 95,328 |

森精機のグローバルネットワーク

グローバルな体制でタイムリーなサービスサポートを展開しています。

テクニカルセンタを国内33拠点、海外に60拠点配置し、サービスの品質均一化を図っています。



会社データ

会社の概要

2011年3月31日現在

会社名 株式会社森精機製作所 (MORI SEIKI CO., LTD.)

資本金 41,132百万円

設立 1948年10月

本店(登記上) 奈良県大和郡山市北郡山町106番地

名古屋本社 〒450-0002 名古屋市中村区名駅2丁目35-16

TEL:052-587-1811(代)

東京支社 〒108-6018 東京都港区港南2丁目15番1号 品川インターシティA棟 18階

TEL:03-5460-3570(代)

主な事業内容 工作機械(マシニングセンタ、数値制御装置付旋盤及びその他の製品)の製造及び販売

従業員 2,614名(個別)/4,107名(連結)

ホームページ <http://www.moriseiki.com/>

役員 取締役社長 ※ 森 雅彦 常務取締役 高山 直士

(2011年6月14日現在) 取締役副社長 ※ 近藤 達生 取締役 佐藤 壽雄

取締役副社長 平元 一之 常勤監査役 内ヶ崎 守邦

専務取締役 玉井 宏明 監査役 加藤 由人

(注)1. ※印は、代表取締役を示しています。 監査役 栗山 道義

2. 監査役の加藤由人、栗山道義の両氏は、社外監査役です。

株式の状況

2011年3月31日現在

発行可能株式総数 200,000,000株

発行済株式の総数 110,601,493株(自己株式7,873,819株除く。)

単元株式数 100株

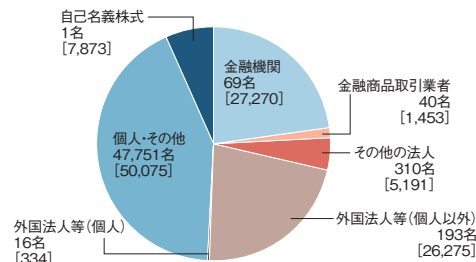
期末株主数 48,380名

大株主

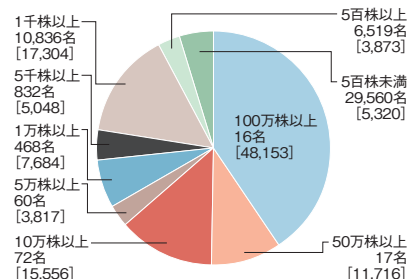
| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|---|----------|----------|
| | 持株数(千株) | 議決権比率(%) |
| 森 雅彦 | 4,615 | 4.18 |
| ギルデマイスター アーゲー (常任代理人 クレディ・スイス証券株式会社) | 4,427 | 4.01 |
| ザバンク オブ ニューヨーク ジャスディック トリーティー アカウ (常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部) | 4,327 | 3.92 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 3,904 | 3.53 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 3,829 | 3.47 |
| 野村信託銀行株式会社(投信口) | 3,041 | 2.75 |
| 全国共済農業協同組合連合会 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社) | 2,950 | 2.67 |
| モルガンスタンレーアンドカンパニーインク (常任代理人 モルガン・スタンレーMUFJ証券株式会社) | 2,466 | 2.23 |
| 森 智恵子 | 2,287 | 2.07 |
| ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社) | 2,190 | 1.98 |

(注) 当社は、自己株式(7,873,819株)を保有していますが、上記大株主からは除いております。

所有者分布状況 [単位:千株]



所有株式数別分布状況 [単位:千株]



株主メモ

| | |
|--------------|---|
| 事業年度 | 4月1日～翌年3月31日 |
| 期末配当金受領株主確定日 | 3月31日 |
| 中間配当金受領株主確定日 | 9月30日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 株主名簿管理人 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 特別口座の口座管理機関 | |
| 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 ☎0120-094-777 (通話料無料) |
| 上場証券取引所 | 株式会社東京証券取引所 市場第1部 株式会社大阪証券取引所 市場第1部 |
| 公告の方法 | 電子公告により行う 公告掲載URL http://www.moriseiki.com/japanese/index.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) |

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

当社ではホームページにて
当社の企業情報を随時開示しています。
製品紹介、各種リンク、サポート情報等を掲載しているほか、
IR情報のサイトでは決算短信等がご覧いただけます。

<http://www.moriseiki.com/>

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **6141**

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を呈呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細<http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

